

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた官民協働の重要性」

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの
構築支援事業委員長

岩上 洋一

(社会福祉法人じりつ理事長)

にも包括における基本的な事項

「にも包括」が機能すると

住民はメンタルヘルスに関心を持つようになり、そのサインに気づける人、周りの人に声をかけられる人が増える。

サインに
気づく



声をかける



支え合う
地域へ

市町村の地域保健所管課

住民の多岐にわたる困りごとに対して、メンタルケアに焦点をあてて個と世帯を丸ごと支援する。

疾病が疑われるが精神科医療へのアクセスに抵抗感がある場合は、本人の意思を尊重して、医師の訪問による精神保健相談を行う。

精神科医療機関

外来機能の充実や入院時の高いアセスメント力を発揮して、医療と保健・福祉の切れ目のないケースマネジメントを行う。

都道府県

住民が必要とする多様な精神疾患に対応できる医療提供体制を構築する。

市町村の障害福祉所管課

基幹相談支援センター・地域生活支援拠点等を中核に据えて協議会を活用して、住民の潜在的にニーズを把握するとともに、誰もが安心して自分らしく暮らすことができる地域づくりを行う。

市町村の包括的な支援体制の整備・重層的支援体制整備事業の所管課

精神保健を土台として活用するとともに、調整機能を駆使して、包括的な支援体制の司令塔となる。

それぞれの役割が連携し、切れ目のない支援を実現することが「にも包括」の機能です。

土台作り

精神保健を基盤とした地域の体制を整える

人づくり

支え合う人材を育て、住民の力を高める

仕組みづくり

切れ目のない支援の仕組みをつくる

組織づくり

多職種・多機関の連携体制をつくる

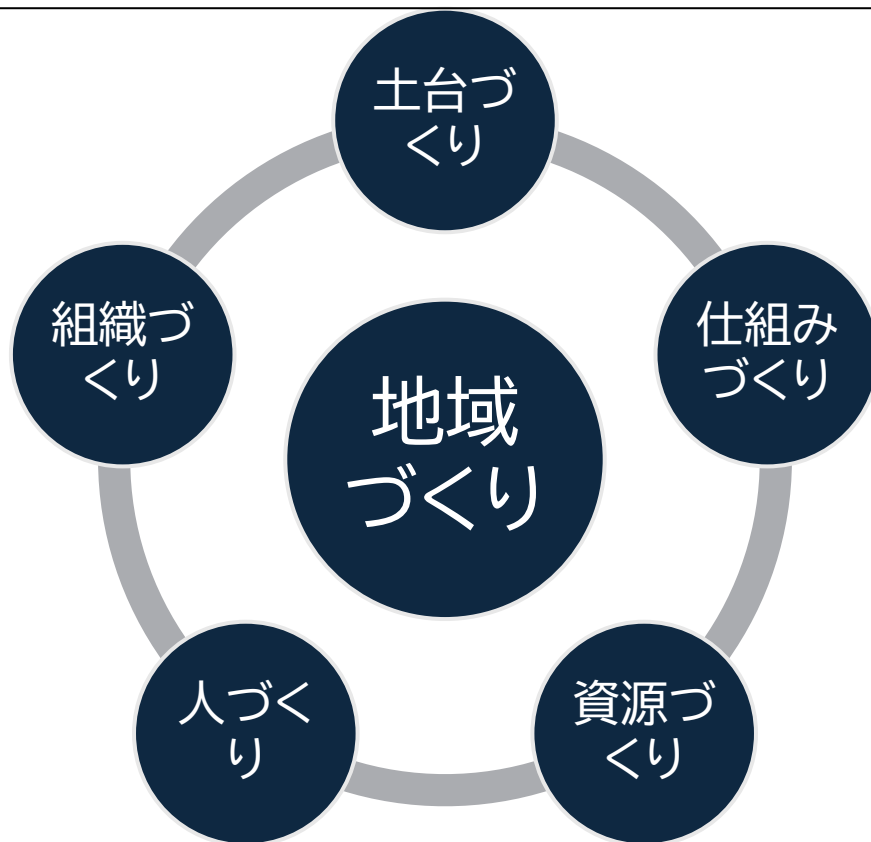
資源づくり

必要なサービスや資源を充実させる

地域づくり

誰もが安心して暮らせる地域をつくる

「にも包括」は〇〇づくり



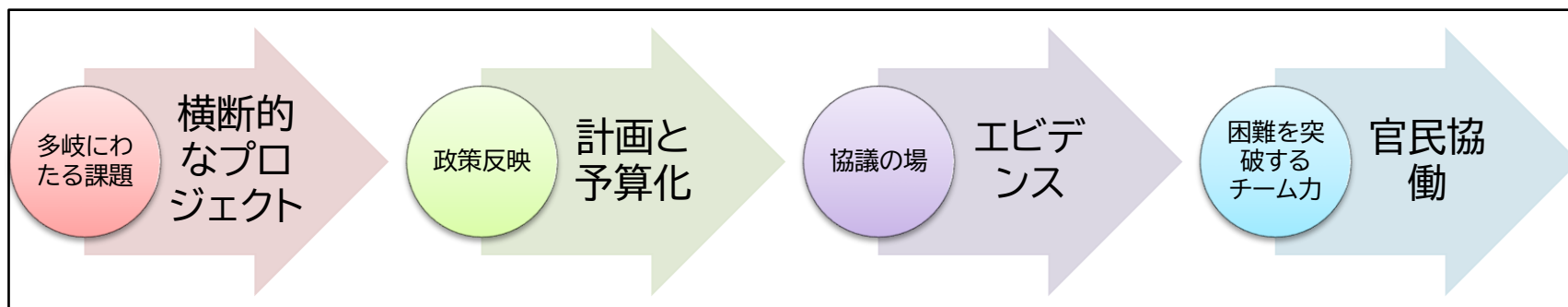
官民協働

- 多岐に渡る課題に対して、横断的な仕組みを通して、政策反映するために民間の力を活用する。

官民協働のメリットとデメリット

- 行政の人事異動に振り回されにくい。
- チームで仕事することで目指す方向がぶれない。
- 民のメンバーが官のつなぎ役になる。
→ 継続した事業展開が可能になる。
- チームが機能するまで手間と時間がかかる。
- チームのメンテナンスが必要。
→ 生みの苦しみと育てる苦労(苦しみ)

参考 島田知子 官民協働のチーム作りのコツ 令和5年度 精神障害にも対応した地域包括ケア システム構築支援事業 にも包括構築担当者研修資料一部改編

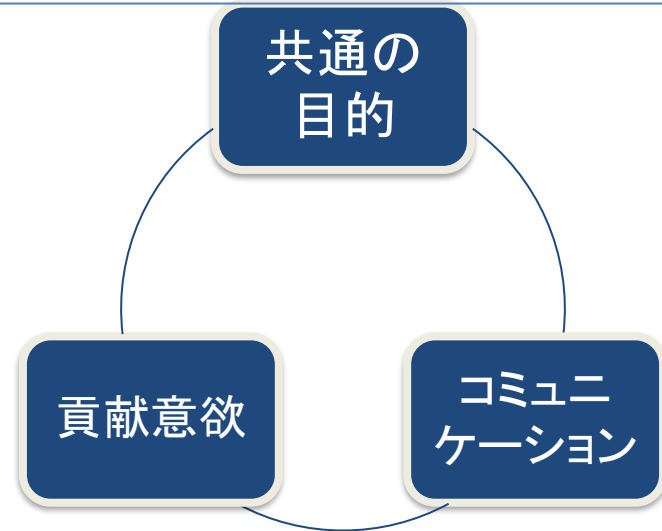


ジョン・カツツエンバツク氏のチームの定義

「ある特定の目的のために多様な人材が集まり、協働を通じて、相乗効果を生み出す少人数の集合体である」

- 共通の目的
- 達成すべき目標
- アプローチの共有
- 連帯責任を果たせる補完的なスキル

チェスター・バーナードが提唱した組織論



- 「**コミュニケーション**」組織内のメンバーで情報を共有し、意思疎通を図る。
- 「**貢献意欲**」組織のメンバーがチームの活動に対して発揮されるモチベーション。
- 「**共通の目的**」協働意欲は協働の目標なしには発展しない。

支援者間連携

課題のブレイクダウン型+データの活用
目指すべき方向性からのアプローチ

個別支援検討の軸

支援体制整備の軸

地域基盤整備の軸

問題集約・ボトムアップ型+データの活用
現状と問題点からのアプローチ

機関間連携

市町村ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場、市町村

事務局機能:
コアチーム

市区町村は、コアチームをつくる。**市町村担当者(福祉・保健)、基幹相談支援センター**が中心となり、保健所担当者、関係機関担当者等と協議する。目標設定、課題分析を行い、協議会の検討事項を整理する。

機関間連携

障害保健福祉圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場、保健所

事務局機能:
コアチーム

保健所は、コアチームをつくる。**保健所担当者、関係機関担当者が中心となり、**県担当者と協議。目標設定、課題分析等を行い、協議会の検討事項を整理する。

都道府県・指定都市レベルの機関間・団体間連携

都道府県等ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場、本庁・精神保健福祉センター

事務局機能:
コアチーム

都道府県等は、コアチームをつくる。**主管課・関係各課、関係機関担当者が中心となる。**目標設定、課題分析等を行い、協議会での検討事項を整理する。

<協議の場の機能（横軸）と協議内容の構造（縦軸）の概念>

<会議体としての「協議の場」>

保健・医療を起点とした
基盤整備の検討

統合した
地域づくり
の検討

福祉を起点とした
基盤整備の検討

地域基盤の整備
の軸

支援体制の整備
の軸

個別支援の検討
の軸

- ・保健・医療に係る資源等の活用・開発
- ・地域の実情に応じた施策・制度等の検討

- ・保健・医療提供体制の構築
- ・体制構築に向けた課題抽出

- ・個別課題解決
- ・個別ケースから見える地域課題の抽出

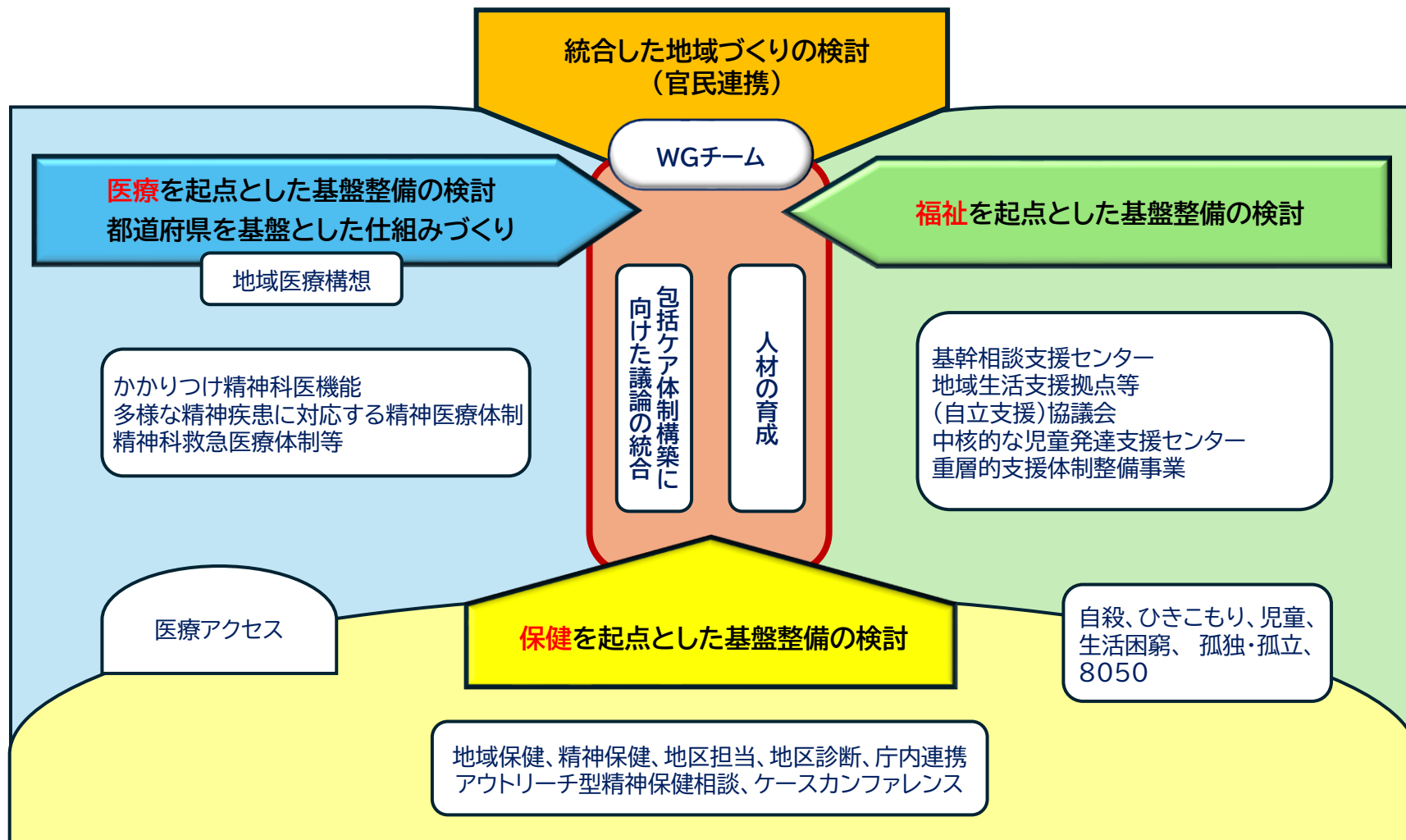
- ・障害福祉サービスに係る資源等の活用・開発
- ・地域の実情に応じた施策・制度等の検討

- ・障害福祉サービスの提供体制の構築
- ・体制構築に向けた課題抽出

- ・個別課題解決
- ・個別ケースから見える地域課題の抽出

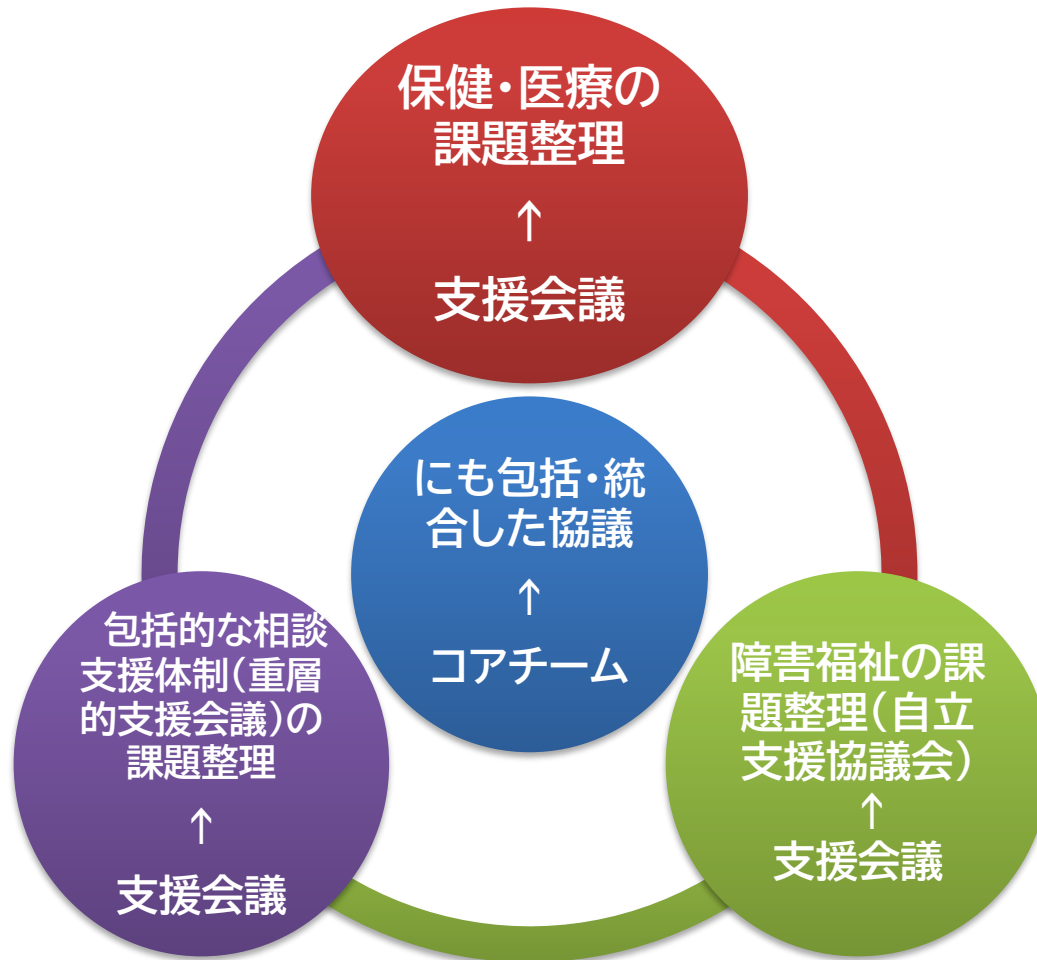
包括ケア体制構築に向けた議論の統合

市区町村「にも包括」の基盤整備



住民(誰もが安心して、自分らしく、暮らせることができる)

市町村「にも包括」協議の場



基幹相談支援センター
地域生活支援拠点等
協議会で地域づくりをする
ための3つの起点
解の1つは、**地域定着支援の拡充**

相談支援体制をつ
くる上で複数の計
画相談支援事業所
が協働して一体的
管理運営を行う体
制の整備について
協議する。

**地域定着
支援**

地域定着支援つ
て晴れた日に
きれいな傘を
買っておくこと
なんですね！

基幹相談支援センター
の中核的な機能として
の「③ 地域の相談支援
従事者に対する助言等
の支援者支援」「④
(自立支援)協議会の運
営への関与を通じた
「地域づくり」の業務」
を行う体制を整備する。

これまでは土砂
降りの日にあわ
ててビニール傘
を買ってました。

地域生活支援拠点等
拠点コーディネーター
の配置については、
相談支援事業所の地
域生活支援拠点等機
能強化加算で予算化
する。

地域定着支援の対象者
援助を要する障害者であって、
居宅において単身であるため又
はその家族と同居している場合
であっても当該家族等の障害、
疾病等若しくは当該障害者の生
活環境の大きな変化その他の事
情により、当該障害者に対し、家
族等による支援が見込めない状
況にあるもの。

官民協働コアチームのための実践知

実践知	役割	自治体	地域保健	医療機関	ソーシャルワーク	今の世代
人の良さ	関係をつくる	信頼形成力 (信頼をつくる力)	関係形成	信頼の醸成	ネットワーキング	つながり力
御用聞き	課題をつかむ	課題把握力 (声をつかむ力)	地域診断	需要の把握	ニーズアセスメント	聞きキャッチ
根回し	関係を整える	合意形成力 (合意をつくる力)	連携調整	協働の形成	コーディネーション	段取り力
適度なお節介	力を引き出す	人材育成力 (人を育てる力)	主体形成	関与の促進	エンパワメント	ちょい手助け
ひとつやってみるか	行動に移る	構想化力 (形にする力)	実践展開	社会的期待	インターベンション	まずやってみる

人と人との関係を通して社会を変えていく営み。関係の質が高まると、人が動き、実践が生まれ、制度や政策も動き始める。

官民協働コアチーム × 成功循環モデル

コアチームの実践が、関係の質を変え、成功循環を動かす

コアチームの実践プロセス (日本語の実践知)

- 1 人の良さ**
一人ひとりの良さを見つけ、認め、活かす
- 2 御用聞き**
声を聴き、想いや困りごとを受け止める
- 3 根回し**
人と人をつなぎ、場や機会をつくる
- 4 適度なお節介**
一歩踏み込み、伴走し、支えつづける
- 5 ひとつやってみるか**
小さく動き、やってみて、振り返る

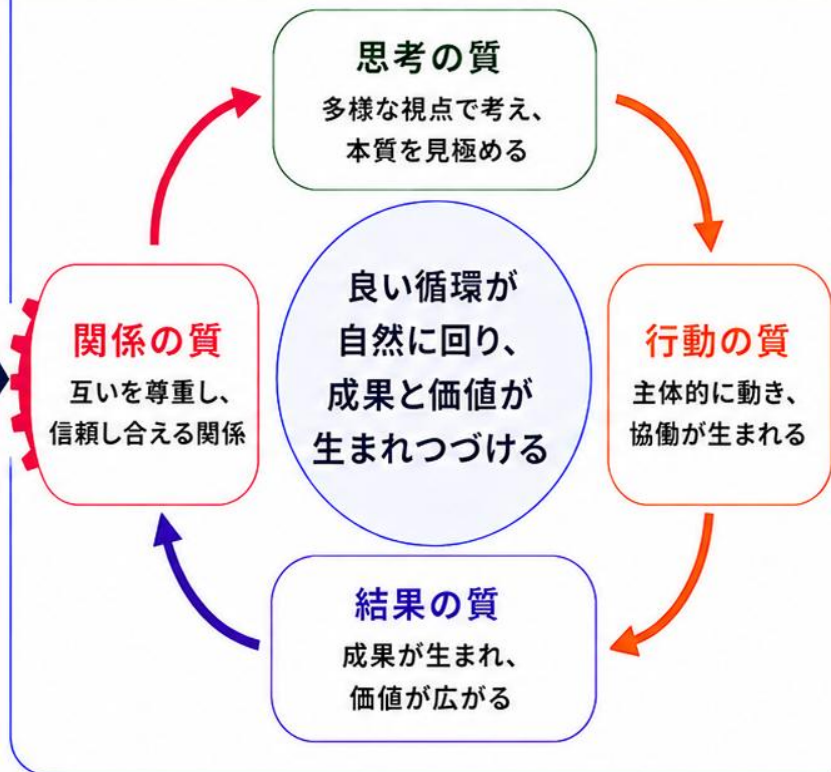
コアチームが動く
信頼でつながり、チームとして動きつづける



連動

関係の質を
変える

成功循環モデル (ダニエル・キムの成功循環)



コアチームが動くことで、**関係の質**が変わり、**成功循環**が自然に回り出す

このモデル
の本質

左：日本語の実践知 (動かす力)

右：成功循環モデル (組織が変わる構造)

ポイントは「順番」ではなく「連動」

実践が動く

→ **関係が変わる**

→ 思考・行動・結果が変わる

→ さらに関係が深まる